

検体実験報告書

日本原子力バックエンド 東海事務所 所長 榎戸様立会いによる検体(土壌)実験

測定場所: 福島市 福島工業団地
加藤鉄工株式会社

測定機器: 関西電子株式会社 CRM301型線量率計

実験日時: H26.1.10(金) 14:00~

1、測定記録

(1) 検体容量(g) (土壌)

	No.	大容器(g)
電解水A	①	108
電解水B	②	108
土壌基本検体	③	108
水道水	④	108

(2) 基本検体

		$\mu\text{SV/h}$
BackGround	計測	0.069
基本検体 (土壌)	①計測	13.503
	②計測	13.332
	③計測	13.170
平均値		13.335

($\mu\text{SV/h}$)

		散布前	電解水散布後※	低減率(%)
電解水A (製造日:1月9日)	①計測	13.685	11.840	-13.5%
	②計測	13.746	11.740	-14.6%
	③計測	13.774	11.730	-14.8%
	平均値	13.735	11.770	-14.3%
電解水B (製造日:1月10日)	①計測	13.739	10.920	-20.5%
	②計測	13.494	10.840	-19.7%
	③計測	13.692	10.070	-26.5%
	平均値	13.642	10.610	-22.2%
		散布前	水道水散布後※	低減率(%)
水道水	①計測	13.541	13.727	1.4%
	②計測	13.742	13.732	-0.1%
	③計測	13.687	13.660	-0.2%
	平均値	13.657	13.706	0.4%

※各検体散布後、5分以内に計測しています。

2、条件

4つの大容器に各土壌検体108gずつ入れて計測。その後内3つに電解水A、電解水B、水道水を入れて計測。遮蔽には、遮蔽鉛ポットを使用し、十分な遮蔽を行う。

3、実験方法については、別紙写真の通りです。ご参考まで。

4、考察(原子力バックエンド推進センター 榎戸所長考察)

電解水A及び電解水Bを使用しての土壌検体実験において、放射能線量値が下がる現象が見受けられた。遮蔽方法によって形態等も変わるので、分析に出して確認する。
水道水での放射能低減は見受けられなかった。